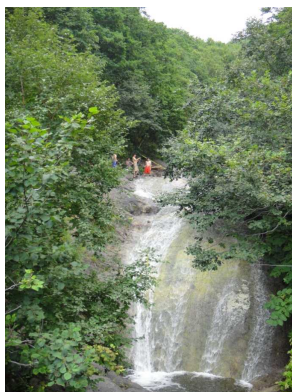


平成22年度カムイワッカ地区自動車利用適正化対策

現地管理連絡調整等業務報告書(概要版)

財団法人 知床財団



1999年以降、知床国立公園における自然環境の保全と快適な利用環境確保を目的とした自動車利用適正化対策として、カムイワッカ地区の車両規制が行われている。2005年以降、知床五湖 - 知床大橋間の道道知床公園線は、落石防止工事施工のため通年通行止めとなり、カムイワッカ地区は7月13日から9月20日までの70日間、シャトルバス利用者に限り利用できることとなった。更に2006年以降、カムイワッカ沢内も落石の危険があることから、利用は1の滝上部までに制限された。本年の車両規制も、2006年以降の体制を踏襲して実施された。本報告書は、本年におけるシャトルバスおよび各駐車場の利用状況、知床五湖の渋滞状況などについて概要を記すものである。

1. 本年の車両規制に係る特筆すべき事柄

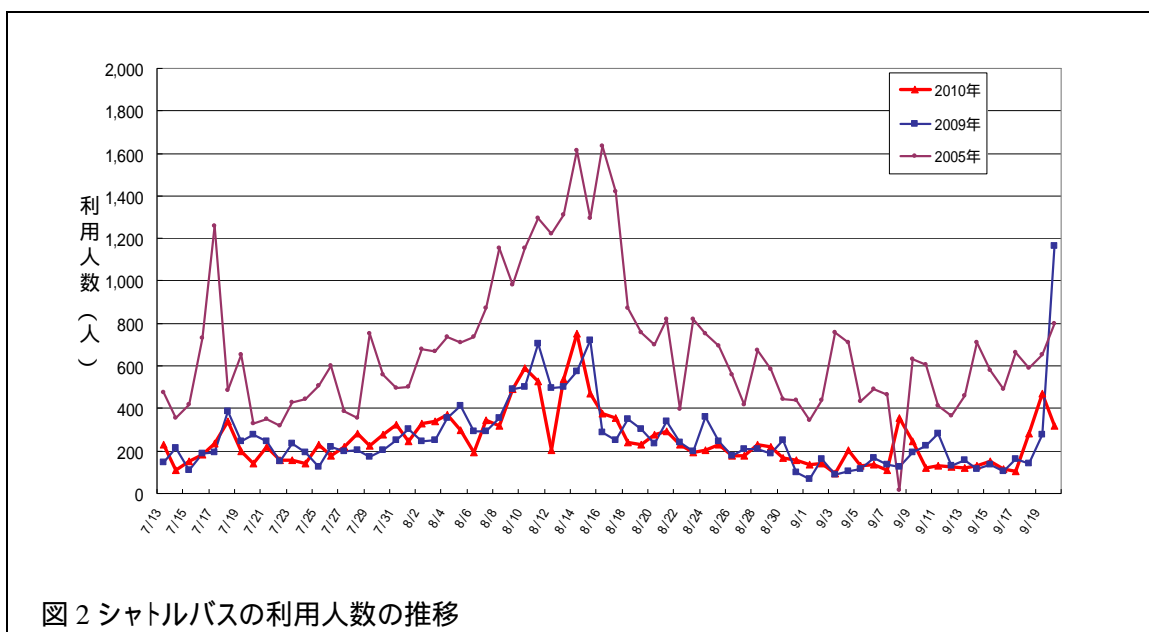
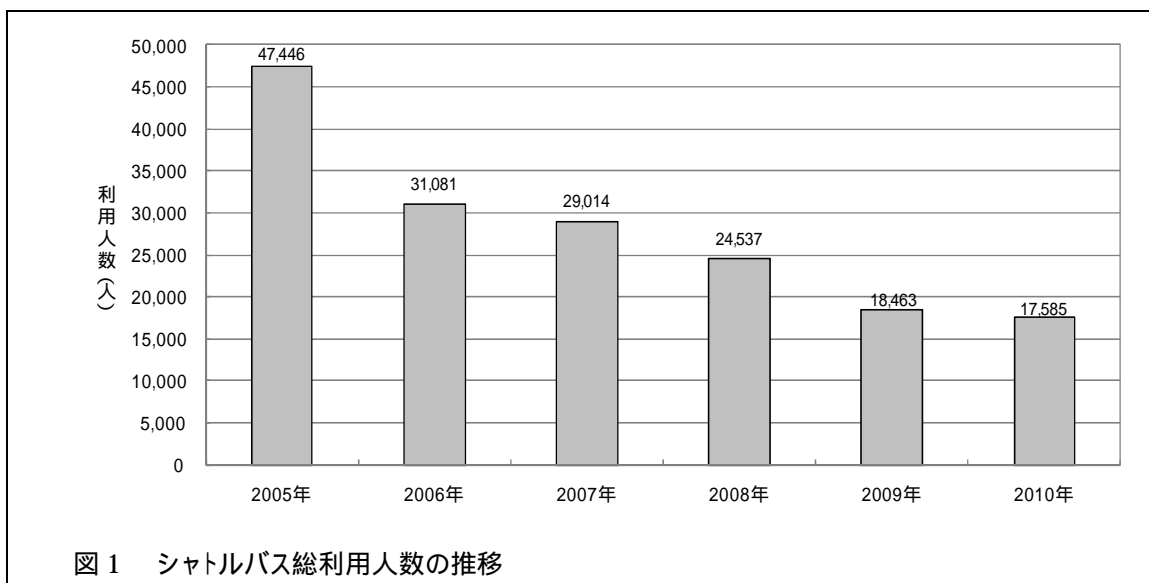
- ・シャトルバスの運行間隔が変更された。昨年全期間20分間隔1日25便だったものが、今年より8月9日から同17日は20分間隔1日25便の運行、これにより7月13日～8月8日、8月の18日～9月20日までは40分間隔1日13便となった。なお、始発は8:30ウトロ温泉ターミナル発の便であった。
- ・岩尾別温泉(羅臼岳登山口)のバス停がなくなり、前記バス停を経由しなくなった。
- ・知床自然センター内にバスチケット販売所を設け、バス運行会社のスタッフがチケット販売や問い合わせ対応にあたった。
- ・専用駐車場は、知床自然センター周辺の駐車場が満車となった場合のみ、臨時駐車場として使用されることとなった。

2. シャトルバス利用について

現地連絡調整業務として、車輛規制期間中、現地の状況の把握と連絡調整を行った。

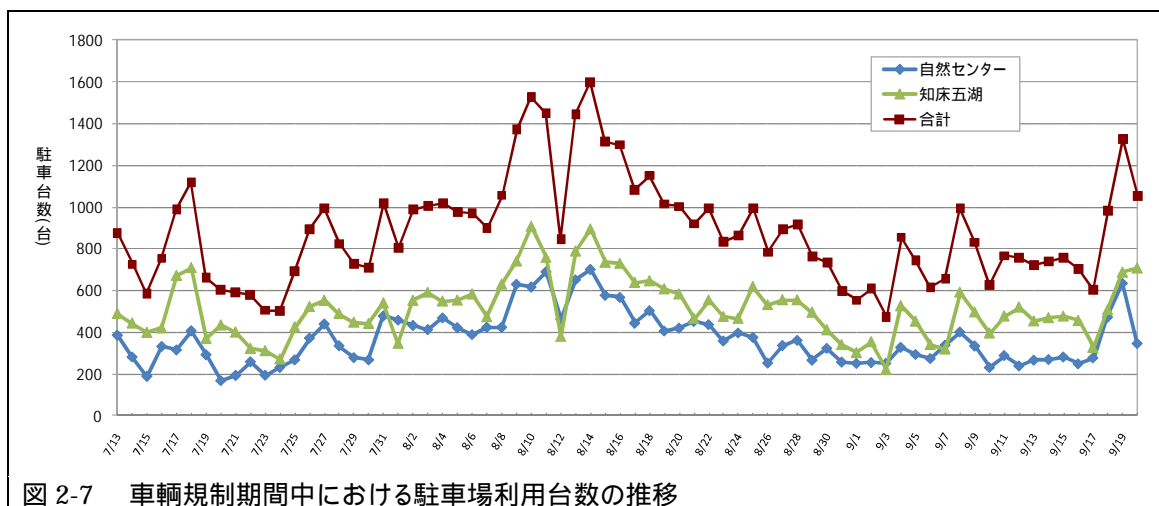
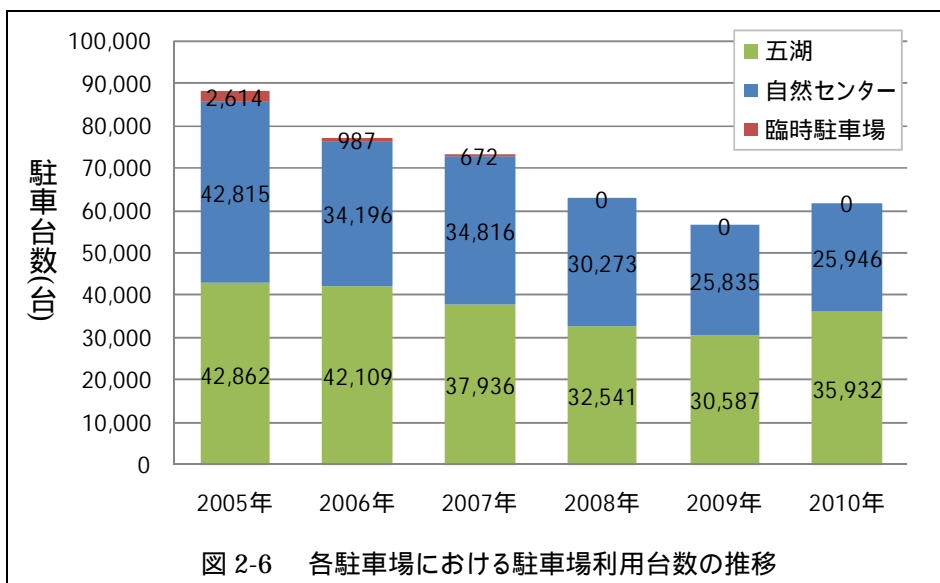
2-1 シャトルバスの利用人数

- ・ シャトルバス総利用人数は17,585人であった。シャトルバスの利用人数は2005年以来年々減少し続けており、昨年比95.2%と大幅ではないものの更に減少した(図1)。
- ・ お盆および9月祝日時に多くのシャトルバス利用が見られたが、海の日を含む3連休時(7月)には、利用者の顕著な増加は確認できなかった(図2)。
- ・ 8月12日の急激な利用人数の減少は、荒天による沢の閉鎖と、それに伴いシャトルバスが運休になったことによるものである。なお9月9日に修学旅行生45名が湯の滝を利用した。



2-2 自然センター及び五湖駐車場の駐車台数

- ・ 知床自然センターおよび知床五湖駐車場における合計駐車台数は 61,878 台であり、昨年比 109.6%であった。シャトルバス利用人数は減少したものの、駐車場利用台数は昨年に比べ増加した本年車輛規制期間中の3つの駐車場の合計駐車台数は61,878台であり、昨年の109.6%、世界遺産登録年である2005年と比較すると70.0%となり昨年よりは増加した。(図3)。
- ・ 駐車場の駐車台数はお盆時期と9月19日に増加した(図4)。



3. カムイワッカ湯の滝における状況の把握

カムイワッカ地区利用者の安全確保、また適正な利用と自然維持のための基礎的な情報収集のために、環境省が現地へ派遣する巡視員からの報告を取りまとめた。また、カムイワッカ湯の滝において負傷者発生やヒグマ出没などの緊急事態が発生した場合には、巡視員は他の現地スタッフと連携して一次対応にあたりると共に状況を記録するものとした。

3-1 負傷者の発生状況

- 巡視員から負傷の報告を受けた利用者数は36名であった。内35件は軽傷であったが、内1件、沢で転倒した男性が頭部を強く打ち、頭部から軽い出血、一時的ながら意識不明になる事態が発生し、救急車を要請する事態となった。命に別状はなかったものの、体に麻痺が出たとの事で、その後3週間強リハビリのために入院した。

3-2 ヒグマ出没状況

- カムイワッカ地域でのヒグマ目撃件数は20件であった。知床財団ヒグマ対策スタッフが調査のため出動したケースが9件あり、うち2件では追い払いが実施された。また5件については、カムイワッカ湯の滝の一時閉鎖が行われた(図3、表2)。

3-3 その他

- 期間中、増水によってカムイワッカ湯の滝が4回閉鎖された。内1回は当日の午後半日の間シャトルバスが運行を中止した(表3-3)。
- 車輛規制期間中、1の滝上部を突破した利用者は1組2名であった。
- 車輛規制期間中、知床五湖からカムイワッカ地区に向かう分岐地点のゲートを突破したものは、徒歩4名、自転車1名、バイク1名の計4組6名であった。
- 8月上旬に外国人観光客がバスの窓からパン1斤をばらまいた事例があった。

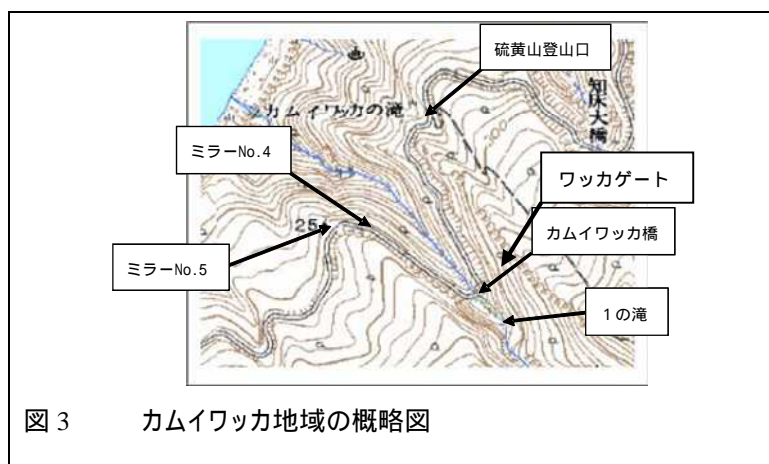


表2 カムイワッカ地域におけるヒグマ目撃・対応事例一覧

日付	時間	No.	場所	目撃者	ヒグマ構成	対応状況
7/18	12:00	1	ワッカゲート付近	警備員	単独	
7/19	9:30	2	ワッカゲートから硫黄山登山口方向へ150m法面	警備員	単独	
7/20	9:15	3	1の滝付近	GSS	単独	9:40に一時閉鎖。知床財団職員が調査したが目視はなし。10:00開放。
	10:30	4	1の滝上	GSS	単独	再度閉鎖。知床財団職員が調査するも目視なし。10:55開放。
7/21	9:30	5	ワッカゲートから硫黄山登山口方向へ200m法面	一般	単独	9:50一時閉鎖。知床財団職員が調査するも目視なし。10:20開放。
7/22	13:30	6	一の滝右岸側斜面	警備員	単独	13:30一時閉鎖。知床財団職員が調査するも目視なし。14:20開放。
	14:30	7	ミラーNo.3山側法面	知床財団	単独	花火弾、轟音玉によって法面上方へ追い払い。
7/24	14:00	8	ワッカゲートから硫黄山登山口方向へ300m	一般	単独	
7/25	12:30	9	ワッカゲートから硫黄山登山口方向へ400m	一般	単独	
7/27	11:15	10	ワッカゲートから硫黄山登山口方向へ50m 知床大橋側斜面上方林縁部	知床財団	成獣2頭	目視はしたが2頭ともすぐロストし追い払いはせず。
7/29	10:50	11	1の滝上流7~8m	ワッカ監視員	単独	知床財団職員が調査するもヒグマの目視には至らず。
8/1	14:35	12	ワッカゲートから硫黄山登山口方面へ約450m法面	ワッカ巡視員	単独	
8/3	10:40	13	一の滝 監視員から約20m右岸法面	GSS	単独	10:40一時閉鎖。知床財団が調査するも目視なし。11:30開放。
	11:00	14	ワッカゲート知床大橋側 法面上方約10m	一般	単独	
	11:50	15	カムイワッカ橋と硫黄山登山口の間	知床財団	単独	声かけ及び手叩きで斜面上方へ追い払い。
8/9	16:30	16	硫黄山登山口付近	一般	成獣2頭	
	16:55	17	監視員から約300m 左岸法面	一般	単独	
8/16	10:30	18	知床大橋側道路より上	警備員	単独	
9/8	9:20	19	3の滝付近	監視員	単独	
9/9	11:50	20	ワッカゲートから硫黄山登山口方向約100mの道上	監視員	単独	

表中青色で示された事例は、知床財団ヒグマ対策員が現地調査したがヒグマの目視には至らなかったケースを表す。
 表中黄色で示された事例は、知床財団ヒグマ対策員が現地調査しヒグマの追い払いを実施したケースを表す。
 表中赤色で示された事例は、ヒグマ出没によりカムイワッカ湯の滝が一時閉鎖されたケースを表す。
 GSS グリーンサポートスタッフ: 森林保護員(森林管理局の非常勤職員)

表3-3 増水による湯の沢閉鎖事例

日付	沢の状況	バスの運行	道路閉鎖
8/12	台風による増水。12:00自然センター発を最終として五湖からカムイワッカまでの区間、運行中止。	12:00以降運休	なし
9/3	12時頃から増水および混濁が始まる。12:03一時閉鎖、15:00より開放	平常通り運行	なし
9/6	12:30から閉鎖し、終日閉鎖が続いた。	平常通り運行	なし
9/7	朝から大雨による増水のため沢を閉鎖。13:00に開放したが、14:50再度閉鎖し終日閉鎖が続いた。	平常通り運行	なし

4. 知床五湖における自動車利用状況の把握

知床国立公園内で最も集客力のある観光地のひとつである知床五湖において、例年夏休み期間中に発生する入場待機車両による渋滞の実態を明らかにするため、7月1日から9月30日までの92日間、渋滞発生状況を調査した。なお、本調査は2003年から継続され、データの収集は(財)自然公園財団知床支部の協力を得て実施されているものである。

- ・ 渋滞発生日数、渋滞指数および渋滞発生回数の総和は昨年よりも増加しており、本年は頻繁に渋滞が発生していたことが示された(表3, 7)。
- ・ 知床五湖駐車場における駐車台数は、いずれの月においても昨年より増加しており、渋滞発生の主な要因と考えられた(表4)。
- ・ H21 から H22 にかけて変更・変化した要素として、世界遺産五周年によるメディア露出の増加、本年4月より高架木道が全線供用開始、知床五湖利用コントロール導入実験の実施、8月電柵撤去後のヒグマの出没による遊歩道閉鎖がなかったこと、シャトルバスの減便、五湖利用調整地区導入前の駆け込み需要等が挙げられ、これら要素の複合的な影響による、知床五湖での滞在時間、利用人数の増加が渋滞の原因ではないかと考えられるが、確証は得られなかった。
- ・ 上記変化要素の内、特に本年6月19日から7月19日まで実施された知床五湖利用コントロール導入実験による渋滞が懸念されていた。しかし7月1日から7月19日の車輛規制期間中の駐車台数に関しては昨年の6843台に対し7811台と増加したが、渋滞指数は昨年の19、本年は15と減少したことから、実験による影響はなかったと考えられた。

表3 知床五湖駐車場における渋滞発生状況

	渋滞発生日数				渋滞指数の総和			
	7月	8月	9月	合計	7月	8月	9月	合計
2009年	5	24	17	46	19	96	254	369
2010年	9	27	20	56	32	191	209	432

表4 知床五湖駐車場における駐車台数

	駐車台数		
	7月	8月	9月
2009年	10,898	16,050	13,519
2010年	12,875	18,172	14,159

